

土木学会 コンクリート委員会
平成 20 年度 第 1 回 規準関連小委員会 議事録

1. 日 時：平成 20 年 5 月 27 日（火）14：00～17：00
2. 場 所：土木学会 EF 会議室
3. 出席者：橋本親典（委員長）、鎌田敏郎（幹事長）、岩波光保、江口和雄、小川洋二、小田部裕一（原田委員代理）、黒井登起雄、片平博、新藤竹文、椿龍哉、寺村悟、中村雅之、濱田秀則、久田真、横関康祐、浦野真次（記録） *敬称略

4. 配布資料：

- 1-0 平成 20 年度第 1 回規準関連小委員会 議事次第
- 1-1 平成 19 年度第 4 回規準関連小委員会 議事録（案）
- 1-2 「骨材の形状係数」に関する質問に関する回答書
- 1-3 JA 漏斗キャリブレーション質問書
- 1-4 コンクリート標準示方書 2007 年制定[規準編]改訂資料(案)
- 1-5-1 シース関連の WG について(案)
- 1-5-2 46.内ケーブル用シースの試験方法(案)
- 1-5-3 シースに要求される性能
- 1-5-4 プレキャストセグメント工法を用いた PC 橋の継目部防食技術の開発
- 1-5-5 fib Corrugated plastic ducts for internal bonded post-tensioning
- 1-6 [委員会報告書] 土木学会規準「四電極法による断面修復材の…」の制定
- 1-7 今後検討すべき試験項目について（材料 WG）
- 1-8 規準化が望まれる試験方法（樁委員）
- 1-9 硬化コンクリート WG 今後必要と思われる規準（硬化コンクリートに関するもの）
- 1-10-1 補修材料 WG 第 35 回議事録(案)
- 1-10-2 すり減り試験方法一覧(案)

5. 議事

(1) 委員長挨拶

橋本委員長より、来年度に今後規準化が望まれる試験方法に関する動向の講習会（以下、講習会と略す）を開催したいこと、本年度の活動をその報告書（コンクリート技術シリーズ）の作成を中心としたこと、規準編は 2010 年の改訂を目指した活動となることとの挨拶がなされた。

(2) 議事録確認

片平委員より前回議事録（案）の報告があり、承認された。

(3) 平成 20 年度第 1 回コンクリート常任委員会報告ほか

- ・橋本委員長より資料 1-2 に基づき報告があった。粒形判定実積率の規格値の根拠についての質問は、杉山名誉会員に宮川コンクリート委員長名で回答し、特に再質問がないので終了した。
- ・資料 1-3 に基づき、各種漏斗のキャリブレーション試験は困難であることなどの問題点を整理して、フレッシュコンクリート WG が今後の方向性について今後取りまとめ、講習会で報告してほしい。
- ・常任委員会の開催予定、新しく設置された委員会の紹介などがあった。
- ・本年度の本委員会の開催は、今回を含めて 4 回程度となる見込み。
- ・本年度の委員交代は特になし。

(4) 2007 年制定[規準編]改訂資料(案)について

鎌田幹事長より資料 1-4 に基づき報告があり、追加修正がある場合は今週中に鎌田幹事長まで連絡すること、修正がなければ上野委員に委員会 HP に掲載してもらうこととした。なお、資料中の改訂部会

メンバーは改訂当時のものであり、現委員の名簿ではない。これによって、現在、HPにアップされている昨年5月の講習会のpptファイルのpdf原稿は削除することになった。

(5) 各WG活動報告について

(鋼材・補強材WG)

- ・プレストレストコンクリート用シースに関する試験方法について、資料1-5-1～1-5-5について説明がなされた。関連の試験方法を検討するWG成立が承認され、樁委員中心に取りまとめることとなった。構成内容の担当は、PC鋼材；八木委員，グラウト；寺村委員，施工者関係；中村委員，発注者関係；酒井委員にお願いし，シースメーカーにも協力を要請する予定である。
- ・樁委員より資料1-8について説明がなされた。鋼材・補強材関連の項目について，今後取りまとめて講習会で報告してほしい。

(補修・注入材等WG)

- ・濱田委員より，資料1-6について説明がなされた。土木学会論文集には資料1-6を掲載し，解説文などは講習会の報告書に掲載する。「四電極法による断面修復材の体積抵抗率測定方法(案)は，簡単なPPT資料を作成し委員会HPに掲載したい。
- ・すり減りに関する試験方法について，資料1-10-1～1-10-2について説明がなされた。作用する外力によりすり減りのメカニズムも異なるため，試験方法が多数存在する。今後取りまとめて講習会で報告してほしい。

(材料WG)

- ・小川委員より資料1-7について説明がなされた。セメント関係の試験方法として，化学組成分析に関する情報がほしいとの意見があり，関連規準としてセメント協会の試験方法を参照してはどうか。資料の内容について，今後取りまとめて講習会で報告できるかどうか検討してほしい。

(硬化コンクリートWG)

- ・久田委員より資料1-9について説明がなされた。乾燥収縮については，JIS A 1129が改正されるので内容を参照し，クリープについては，JCIより圧縮クリープ試験方法について規準化(JIS化)される予定であるので参照する。

(フレッシュコンクリートWG)

- ・特に報告はないが，前出の漏斗の件および伊藤委員が以前提出した資料を基に単位水量測定方法について今後取りまとめ，講習会で報告してほしい。

今後規準化が望まれる試験方法に関して，これまでの活動が終了した土木学会3種委員会の委員長または幹事長に対してアンケート調査を実施し，本委員会で審議し掲載に値する試験方法については講習会で報告したい。橋本委員長よりメールを配信し，調査を実施する予定である。

(6) 今後規準化が望まれる試験方法に関する動向の講習会について

講習会を来年度実施するという橋本委員長提案が承認され，仮予定として平成21年4月17日(金)(第1候補)，24日(金)(第2候補)とすることとなった。講習会開催を常任委員会に諮ることとする。

(7) 第2回委員会開催

日時：平成20年7月28日(月)14:00-17:00 予定

場所：土木学会(予定)